平成２７年　１１　月　１３　日

平成２７年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２７年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成27年4月21日(火)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語Ａ・Ｂ，算数Ａ・Ｂ，理科，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，理科，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①	国語Ａ	４９人	国語Ｂ	４９人
②	算数Ａ	４９人	算数Ｂ	４９人
③	理科	４９人		

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

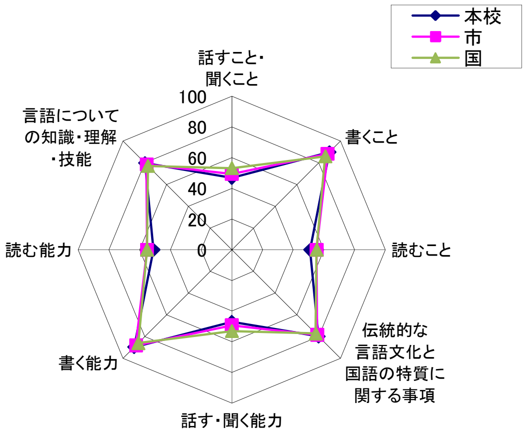
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

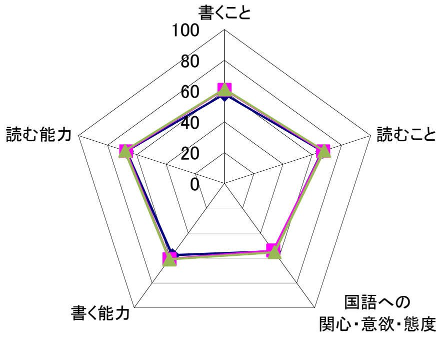
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	46.9	49.3	53.0
	書くこと	89.8	88.2	86.0
	読むこと	51.0	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.8	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	46.9	49.3	53.0
	書く能力	89.8	88.2	86.0
	読む能力	51.0	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	79.8	78.5	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	57.8	60.9	61.1
	読むこと	67.0	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	54.6	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	57.8	60.9	61.1
	読む能力	67.0	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○国語に関する質問のほとんどにおいて，肯定的な回答の割合は全国平均，栃木県平均を上回っている。
●唯一，「今回の国語の問題について，回答を文章で書く問題がありましたが，どのように回答しましたか。」の質問に対し，「すべての書く問題で，最後まで回答を書こうと努力した。」という回答が74．0%で栃木県平均78．0%，全国平均77．7%よりもやや低い。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

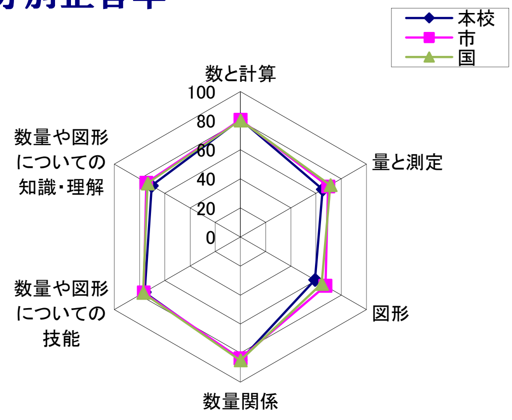
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●領域の平均正答率は全国平均より低い。設問が話の内容に関する聞き方の工夫についてのみで，本校の平均正答率は46．9%である。	・話を聞く際のポイントを明確にし，話の中心や内容に気を付けて聞くように指導し，話し手の考えを捉えられるようにする。また，構成を意識して話すように指導する。
書くこと	○国語Aにおいて，領域の平均正答率は全国平均より高い。具体的な事例を挙げて説明する文章を書くという設問が選択式のためもあり，正答率89．8%である。 ●国語Bにおいては，領域の平均正答率は全国平均よりやや低い。目的に応じ，記事に見出しを付けたり，内容を整理しながら記事を書いたりすることに，課題がある。	・目的に応じ，記事に見出しを付けたり，内容を整理しながら記事を書いたりすることは，書くことではあっても，内容を理解する力や，要旨を捉える力が必要となることから，読解力の面からの力も合わせて養っていく。
読むこと	○国語Bにおいては，領域の平均正答率は全国平均より低いが栃木県の正答率よりは高い。登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読するときの工夫が全国平均より高い。 ●国語Aにおいては，領域の平均正答率は全国平均より低い。新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉えることが難しい。	・新聞を読むことを奨励し，特に読者の投書欄には，小中学生の投書もあるので，読んだ感想や意見を一分間スピーチなどで話させるようにし，身近なできごとの文章からの要旨の読み取る練習を積み重ねる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域の平均正答率は全国平均より高い。特に漢字の正しい読み書きに関する設問の平均正答率が高い。 ●文を構成する主語と述語の照応関係を捉える設問の平均正答率は，全国平均より低い。	・国語辞典や漢字辞典を引いて調べる学習を意図的に行い，一層の定着を図る。 ・幅広い分野の本を読ませることによって語彙を広げたり，文章の基となる主語・述語の関係や，様々な表現に慣れ親しませせたり，既習の漢字を積極的に使わせたりすることで，言葉に関する力の向上を図る。

宇都宮市立岡本小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

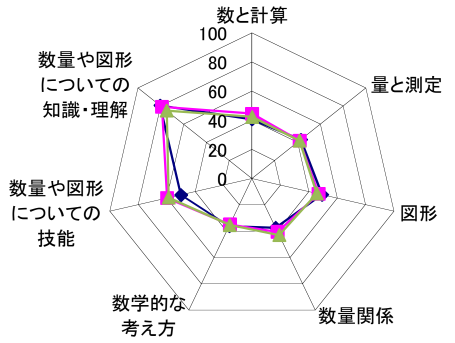
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	80.8	80.7	80.1
	量と測定	65.3	69.6	71.3
	図形	59.2	67.4	64.5
	数量関係	84.7	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	76.1	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	70.5	74.8	73.6



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	40.8	44.6	42.4
	量と測定	42.9	41.8	41.7
	図形	49.3	46.8	45.6
	数量関係	37.4	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	36.1	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	50.0	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	80.6	79.1	74.9



★算数に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○算数に関するほとんどの質問項目について，肯定的な回答の割合は全国平均も栃木県平均をも上回っている。
○「算数の勉強が好き」と回答した児童の割合は全国平均に比べ82%と高く，「算数の勉強は大切である」を肯定的回答の割合は100%であった。
●算数に関する質問項目の中で，唯一「算数の授業の内容はよく分かりますか」の平均肯定割合が82%で，栃木県平均をわずかながら下回る。
●「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問対する肯定的回答が76パーセントで，全国平均は上回るものの今回の算数の質問の中では最も低い。

★指導の工夫と改善

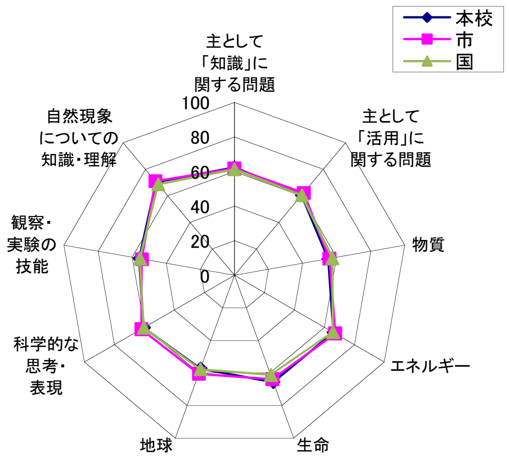
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数Aにおいての領域の平均正答率は，全国平均と比較するとやや高い。特に分数の計算の正答率が高い。 ●小数の減法で，計算の結果のおおよその大きさを捉える問題と末尾の位のそろっていない計算の問題の正答率が，ともに65．3%と低い。 ●算数Bにおいては，全国平均と比較するとやや低い。四捨五入して，指定された位までのおおよその数にして計算する設問が10パーセントも低い。	・小数の表す意味と位取りについて復習をさせ，数の概念を正しく養う。 ・指定された位までのおよその数にすることに苦手意識があるので，繰り返し練習を行い，習熟を図る。
量と測定	○算数Bにおいては，領域の平均正答率はやや高い。特に，面積の問題の正答率が全国平均を上回る。 ●算数Aにおいては領域の平均正答率は，全国平均と比較すると低い。特に分度器で角度の数値を読む設問の正答率が低い。	・面積を求める問題では，少人数指導で繰り返し練習を行うことできドリルを用い習熟を図りやすかったので，良いできだったと思われるので，継続していきたい。 ・分度器の示す値を読み取る作業学習の時間が足りなかった様子なので，習熟を図るとともに，分度器を用い始める学年に申し送る。
図形	○算数Bにおいては，領域の平均正答率は，全国平均と比較すると高い。特に正三角形の性質や，合同な三角形の性質，長方形を二等分する考えを用いて，解答を導く設問が，全国平均の正答率を上回った。 ●算数Aにおいては，全国平均を下回る。特に見取り図と展開図を関連付けて，立体図形の辺や面の位置関係を理解する問題の正答率が15パーセント以上低い。	・基本的な図形の定義や性質についての理解を深めるために，図形の作図や図形を敷き詰めたり分割したりする活動など，作業的・体験的な活動を取り入れたのが成果につながっているので継続する。 ・見取り図や展開図を用いて具体的な操作を取り入れながら理解を深める活動を，学習の中でさらに多く取り入れる。
数量関係	○算数Aにおいては，領域の平均正答率は，全国平均とほぼ同じであるが，その中で，グラフに表されている事項を読み取る設問は全国平均より高い。 ●算数Bにおいては，全国平均を下回る。単位量あたりの大きさを用いて目的に応じた買い物の仕方を選択し，代金を求める問題は，栃木県平均をも下回る。	・割合の学習に対して抵抗があるため，身近な題材を取り入れながら割合を考えさせる機会を増やす。 ・日常生活から題材を取り入れ，まずは単位量あたりの大きさを求めることに習熟させる。

宇都宮市立岡本小学校 第６学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	62.4	61.9	61.3
	主として「活用」に関する問題	60.5	62.2	60.5
区分等	物質	55.1	55.7	57.4
	エネルギー	66.0	67.2	65.6
	生命	65.6	63.8	61.2
	地球	57.4	60.5	57.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	60.5	62.2	60.5
	観察・実験の技能	55.9	54.4	55.5
	自然現象についての知識・理解	70.4	71.1	68.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○理科に関する質問のほとんどにおいて，肯定的な回答の割合が全国平均を上回る。
特に，「理科の勉強は大切だと思うか」「理科の授業で学習したことは，将来，社会に出たとき役に立つと思うか」「観察や実験を行うことはすきか」の質問の肯定的回答率は94．0パーセントと高い。
●「将来，理科や科学技術に関する職業に就きたいと思うか」の肯定的な回答の割合が全国平均を上回るものの32%にとどまっている。
●「理科の授業で自分の考えをまわりに発表したり説明したりしているか」の肯定的な回答の割合は全国平均を下回り，48%である。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質	○予想が一致した場合に得られる結果を見通して，実験を構想する問題は，全国平均正答率より9%高い。 ●区分の平均正答率は，全国よりやや下回る。特に析出する砂糖の量についい分析するために，グラフを基に考察し，その内容を記述する問題の正答率が低く20．4%で，全国に比べ8．5%低い。	・実験をする際に，グループ学習で流してしまうのでなく，実験を構想したり，結果の予想を立てその理由を考えたり，実験結果から読み取れることを丁寧に考察したりする時間をさらにきちんととり，考えや実験記録の記述をチェックすることで，一人一人がしっかりと実験に向き合い力を付けていけるようにする。
エネルギー	○区分の平均正答率は，全国平均正答率を0．2%上回るがほぼ同じ。栃木県の正答率と比べるとほとんどの設問で上回っている。 ●区分の県の正答率より唯一下回ったのが，電磁石の動きを利用した振り子について，思考した結果を基に自分の考えを改善する設問である。	・具体的操作を行い，実験結果をまとめ，整理して，考察できたことで，基本的な知識や理解が得られたのだと思うので，継続し，さらに正答率が上がるよう導きたい。 ・選択式の設問だったので，回答しやすかったと言えるが，思考面での設問に弱いので，自分の考えを持ったり，考えを改善したりする学習をしっかり取り入れていきたい。
生命	○区分の平均正答率は，全国平均正答率を4．4%上回る。区分の全設問において全国・栃木県の両方よりも正答率が上回っている。 ●全国・栃木県より正答率が上回るものの，値としては4割台で低い正答率だったのが，顕微鏡の適切な操作方法と記述式で植物の適した栽培場所について成長の様子と日光の当たり方を適応してその内容を答える設問である。	・実際にめだかを飼い，世話をしながら様子を観察できたことが力となったと考えられるので，5年生でのめだかの飼育の必要性を申し送る。 ・顕微鏡の適切な操作については，実際に使用し習熟させることが必要なので，操作する機会を多く持つようにしたい。
地球	○月の1日の時刻による形と位置の変化の正答率は，全国平均を9．2%上回り，65．3%である。 ●全国平均正答率と比較すると0．4%栃木県の平均からは1．3%下回るが，ほぼ同じ57．4%である。 ●方位についての情報から観察している方位を選ぶ設問の正答率が全国的に低いが，全国よりさらに2．2%低い38．8%である。	・児童がイメージしやすいように，視覚に訴えられる教材の工夫や利用を考え，授業の改善を図る。 ・身近な自然現象にもっと関心を向け，「なぜ，どうして」という思いをもたせられるように，理科の授業だけでなく普段の生活の中で，意識的に問を発していく。

宇都宮市立岡本小学校第６学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

〇「朝食を毎日食べているか」という質問に対する肯定的回答率は，94%である。残り6%についても家庭に協力を求め，改善を図りたい。
〇「ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがあるか」という質問に対する肯定的回答率は，94%と高い。
〇「友だちと話し合うとき，友だちの話や意見を最後まで聞くことができるか」という質問に対する肯定的回答率は，96%と高いが実際にはしっかり話を聞くことができていないことがしばしばある。意識と現実のギャップをうめ，本当に話を聞くことができるように導いていきたい。
〇将来に対して前向きで，「将来の夢や目標を持っているか」という質問に対する肯定的回答率は，94%と高く，「人の役に立つ人間になりたいか」「人の気持ちが分かる人間になりたいか」という質問に対する肯定的回答率は，ともに96%と高く頼もしい。
〇「学校に行くのは楽しいか」という質問に対する肯定的回答率は，96%と高い。しかし，4%は楽しくないと答えているので少数ながらこの数値が楽しいに変わるよう，個別に相談に乗るなどして励ましていきたい。
〇「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」という質問に対する肯定的回答率は100%なので，この気持ちを維持して学校生活を送らせたい。
〇「学級のみんなで協力して何かをやり遂げ，うれしかったことがある」という質問に対する肯定的回答率は，94%と高いことから仲間意識をさらに高め。学校生活をより楽しく過ごさせたい。
●「自分にはよいところがあると思う」という質問に対する肯定的回答率は，84%であまり高いとは言えない。教育活動全体を通して，達成感や充実感を味わえるように指導し，そのがんばりを認めることを通して，自尊心を高めていきたい。
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問に対する肯定的回答率は52%と低い。ペアでの話合いやグループなどの少人数での話合いを通して，自信をもって発表できるように指導していきたい。
●「学校の授業などで，自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しいと思うか」という質問に対する肯定的回答率は50%で半数は難しいとは思っていないはずなのに，積極的な発言が少ない。進んでの発言ができるよう支援していきたい。
●「家で学校の復習をしている」という質問に対する肯定的回答率は60%，「家で学校の予習をしている」という質問に対する肯定的回答率は，62%という低い数値であった。「家で宿題をやっているか」という質問に対する肯定的回答率は，96%だが，「家で自分で計画をたてて勉強しているか」という質問に対する肯定的回答率は，68%と低い。自分に必要な家庭学習や効果的な時間の使い方について，具体例を挙げながら指導し，改善を図っていきたい。
●「新聞を読んでいるか」という質問に対する肯定的回答率は，18%ときわめて低い。「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがあるか」という質問に対する肯定的回答率も48%と低いので，もっと社会に対して広い視野がもてるよう時事問題を投げかけて新聞を読んだり，ニュースを見たりさせていきたい。